

危機管理マニュアル

別冊

2009. 1 1

学校法人武田学園

目 次

ま え が き	1
1 「淳風寮災害対策マニュアル」 (実施分)	2
2 「学寮給食」 (実行案。一部、検討中。)	1 3
3 「落雷」 (例示)	2 3

まえがき

ここに掲載の事例等は、本冊の中で簡単に紹介しているが、誌面構成上等の理由から、その場での掲載ができなかったもので、別冊とした。

直近に掲載するのが、理解が得易いのかも知れないが、多量の内容のものまた、既成の表の分割標示が、困難なもの等の理由により、全容の掲載が出来なかったもので、別冊とした。

本冊と照らし合わせての活用をお願いします。

1 「淳風寮災害対策マニュアル」(実施分)

淳 風 寮

災害対策マニュアル

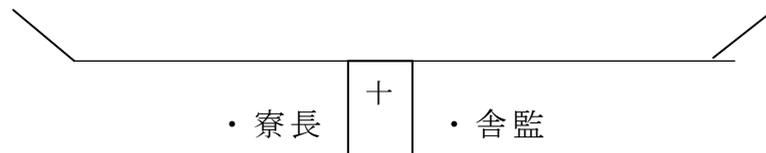
2008. 3

学校法人武田学園
淳風寮舎監室

(2) 集合の要領

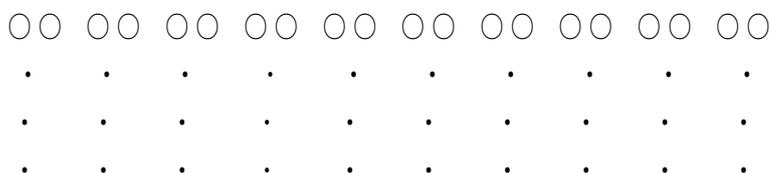
ア、風水害は、食堂 … 各ブロックの標示のある机

イ、火災・地震は、大学2号館東側（駐車場）及び体育館北側玄関前



10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 (各ブロック)

※ 各2列 部屋番号順に整列、座る。



ウ、点呼・報告

※ 部屋順に縦2列に座り、ブロック委員の点呼を受ける。

(1～3ブロック) 副寮長

ブロック委員点呼報告→(4～7ブロック) ブロック委員長→寮長→舎監→
対策本部

(8～10ブロック) 会計委員長

(3) 緊急連絡

ア、広島市消防局

「119」通報

イ、大学当局

昼間 総合支援課 内線 204～205

夜間 大学当直室 内線 223

(4) 対策本部設置

寮生救護・指導班 … 誘導・人員把握・救護・病院搬送

◎ 対策本部長(総括指揮)

(名)

↓

情報収集・連絡班 … 寮生の傷害・施設被害把握・災害に関する諸記録

○ 対策副部長

(名)

(警察・消防・マスコミ・行政対応調整)

災害現場処理班 … 物品の搬出・現場整理
(名)

舎監 …… 対策本・副部長の指示により諸データの提出

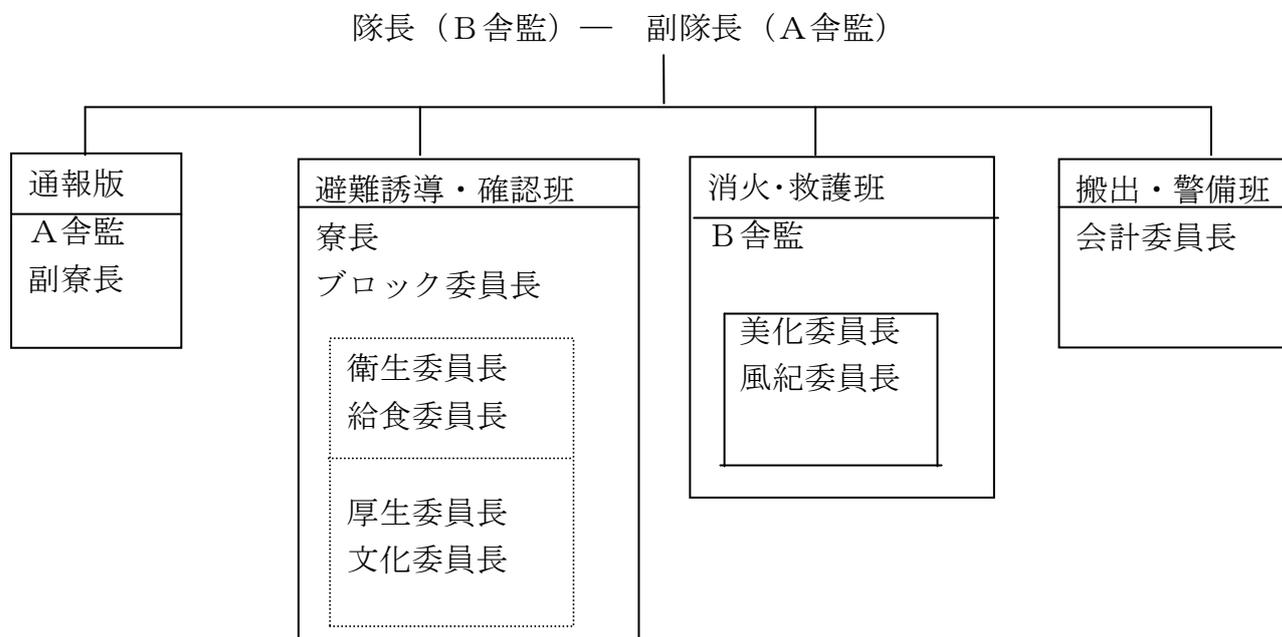
4. 保護者への連絡

災害発生時には、被害の詳細を臨時の保護者通信の発行及び大学のホームページへの掲載で知らせる。

URL <http://bunkyo.ac.jp/university/>

火災発生緊急避難要領

1. 自衛消防隊の組織



2. 自衛消防隊の役割

① 通報班

副寮長は舎監室に行き A 舎監の指示により寮内緊急放送等の連絡にあたる。

② 避難誘導・確認班（「4. 避難経路・避難場所」の図を参照。）

寮長・ブロック委員長は舎監室に行き、正門・裏門の鍵・集合旗・寮生名簿を持って第 1 次避難場所に行き、寮生の掌握にあたる。

衛生委員長・給食委員長、厚生委員長・文化委員長がそれぞれ 1 組となり、出火寮棟以外の二つの寮棟に分かれて行き、屋上から各階の各室・トイレ等全ての部屋に残留者が居ないかを確認する。（常に二人一組で、相互に安全を確認しながら行動する。）

ブロック委員は各ブロックの寮生を掌握し、安全な避難・誘導に努める。

・各ブロック委員は、自ブロックの人員を確認し 1～3は副寮長、4～7

はブロック委員長、 8～10は会計委員長へ報告する。

・副寮長・ブロック委員長及び会計委員長は確認内容を寮長へ報告する。

・寮長はA舎監と協力して確認内容を集計する。集計結果はA舎監がB舎監及び舎監長へ報告する。

③ 消火・救護班 美化委員長・風紀委員長 (常に二人一組で、相互に安全を確認しながら行動する。)

各自消火器を1本ずつ持って出火現場へ行き、B舎監の指示に従い初期消火・救護にあたる。

消火不可能の場合は出火階より階下の各室・トイレ等全ての部屋に残留者が居ないことを確認する。

④ 搬出・警備班 会計委員長

舎監室に行き「非常持出」を持って第一次避難場所へ行き、その保管・警備にあたる。

「非常持出」は別に定める。

(外出簿、特別外出簿、帰省簿、自転車貸し出し簿、メガホン)

3 避難行動

① 第一発見者は直ちに近くの人や舎監室に通報する。

② A舎監は第一発見者の通報や火災報知器の情報により第1次緊急放送をする。

・ 第1次緊急放送 (A舎監)

ただいま () 寮 () 階 () 側にて火災報知器が鳴っています。() 寮の人は直ちに避難してください。

他の寮生の皆さんは避難できる状態で待機してください。(繰り返し放送する。)

A 舎監の行動

B 舎監の行動

- ・ 自衛消防隊に指示する。
- ア 第2次緊急放送を指示（通報班）する。

ただいま（ ）寮（ ）階にて火災が発生しています。寮生は直ちに第1次避難場所に避難してください。

- ・ 消防署へ119番通報（A舎監）
- ・ 大学当直棟へ連絡（A舎監）

イ 寮長・ブロック委員長（避難誘導確認班）に指示する。

- ウ 衛生委員長・給食委員長
厚生委員長・文化委員長に
出火寮棟以外の寮棟の避難誘導
・ 安全確認を指示する。

エ 搬出・警備班に指示する。

- A舎監 第1次避難場所へ移動
- 点呼人員確認
(自衛消防隊の協力を得て)

- ・ 初期消火にあたる。
- ・ 現場の状況をA舎監に連絡する。
- ・ 消火・救護班に指示する。
 - ・ 初期消火
- ・ 出火階より階下の避難の確認
 - ・ 防火戸を閉める。

○ B舎監

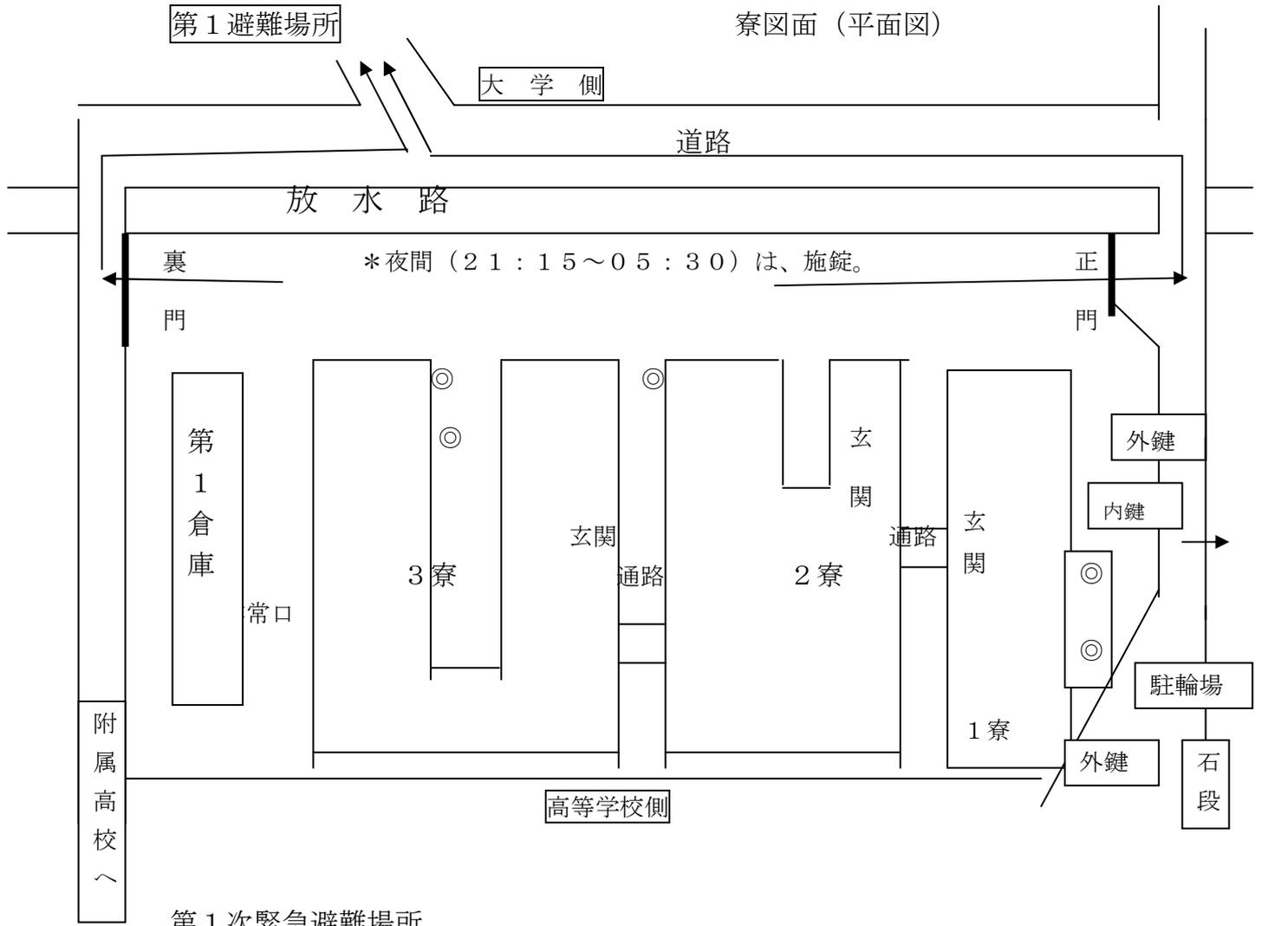
- 出火階及び階上の避難・誘導
- ・ 安全確認 防火戸を閉める。
- ・ 屋上への避難者の有無の確認

・ B 舎監と連絡を取り合う。

・ A 舎監と連絡を取り合う。

不在者の確認がとれない場合は再度該当寮棟の最上階より点検する。

4. 避難経路・避難場所



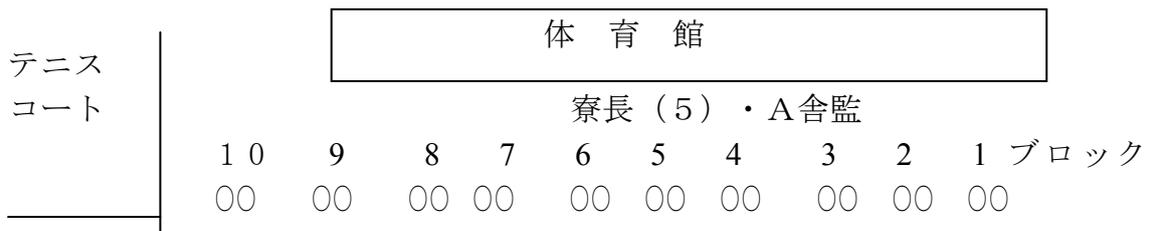
第1次緊急避難場所



寮長(5)・A舎監

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1ブロック
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00

第2次緊急避難場所



寮長(5)・A舎監

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1ブロック
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00

地震時の対応

I 寮内で大きな地震が起きた場合

第1動作

- 1 寮室に居た時→あわてて飛び出さない。
 - ① 割れたガラス、落下物（天井、梁、蛍光灯、ファンコイル等）から身を守る。
（机、ベッドの下に入って身を守る。特に頭部を守る。）
 - ② 火気があれば消す。ガスは元栓を閉める。
出口を確保する。（戸、ドアを開ける。）
- 2 廊下、階段、トイレ、浴室に居た時 →あわてて飛び出さない。
 - ① 廊下、階段の近くの部屋に入る。
頭部の保護 両手を組んで頭にのせる。身近な物を頭部にのせる。

第2動作

- 1 揺れがおさまったら舎監の指示に従う。
 - ① 1次被害が大きかったり、2次被害が起こりそうな場合は、舎監の指示に従い**体育館前**に集合する。
 - ② 放送がない場合でも自己判断で**体育館前**に集合する。
- 2 寮室等から脱出できない場合、大声で自分の居場所を知らせ、救助を求める。
また、救助を求める声を聞いたら舎監又は、第三者に知らせる。

第3動作

- 1 指定した避難場所（体育館前）で緊急避難訓練の時と同じように点呼をとり、人員を確認する。
- 2 定められた避難場所以外には絶対行かない。

II 大学に居た場合

- 1 寮室と同じように身体の安全を守る。
- 2 ゆれがおさまってから教職員の指示に従う。
- 3 避難後は教職員の了解を得て、できるだけ早く舎監に自分の所在場所と心身の状態を報告する。

III 寮、大学以外にいた時

- 1 避難後可能な手段で自分の所在場所と心身の状況を舎監に報告する。

ガスもれ事故時の対応

冷凍機（ガス製造）関係事故の避難要領

- 1 事故発生状況（想定事象）
 - （1）火災発生及び延焼により機器破損
 - （2）地震発生により機器破損

- (3) 風水害により機器破損
- 2 フロンガス漏れ事故の発生
 - (1) 舎監室通報
 - (2) B舎監確認 → 寮生避難（風向き等判断）
→ A舎監へ連絡
 - (3) A舎監寮生避難指示
（全館放送 風向きを考慮し、避難方向、場所を指示）
 - (4) 119番通報（特にガス漏れ事故について指摘）
 - (5) その他の対応については、一般緊急避難要領に準ずる。
- 3 その他
 - (1) ガス漏れ事故発生時、火気の近接禁止
 - (2) ガス中毒被災者に対する手当て（119番通報あるいは、医療機関へ搬送する。）
 - (3) 近隣への避難も消防署、警察署に連絡し対策を講じる。

寮内での不審な外来者への対処

1. 基本的な対処

- (1) 淳風寮舎監は、従来から盗難等被害を防ぐために対処してきた留意事項及び対策に加えて、寮生に対して暴力や危害を及ぼす種類の犯罪から防衛する対策を講じ、実施しなければならない。
- (2) 当寮の建築物の配置・構造は寮へ出入りする者に対してチェックし管理するには困難な状態といえる。以下に挙げる対処方法の一層の強化徹底を図る必要がある。

2. 舎監

- (1) 外来者で不審と感じられる人物に対する有効、適切なチェック
- (2) 現在実施している「来寮者受付名簿」への記入の徹底
- (4) 緊急非常口、非常階段の内側よりの施錠点検
- (5) 門現時の寮の門扉、各寮の廊下等の施錠確認
- (6) 舎監同士の緊密な連携、特に交替時の連絡の徹底
- (7) 寮生へ平素からの生活指導で外出時の行動、寮室の施錠等安全指導をさらに徹底する。
- (8) 寮内の不審な状況及び寮生の通報で危険な状況が察知された時、警察署等・学内関係部署（昼間は学園統括部、夜間は当直棟）への通報
- (9) 赤外線監視装置の適正な操作、対処

3. 寮生

- (1) 自分に対する来寮者（寮生以外の来寮者）があった場合、舎監へ届

け、所定の来寮者名簿受付名簿に記入する。

面談は図書室で行う。

- (2) 寮内で不審な外来者、危険な状況にあった場合、直接または各寮棟入り口に設置しているインターホンで舎監に通報する。
- (3) 身に危害を加えられるような状況にあった場合、大声で助けを呼ぶ。そのような状況を目撃した者は舎監室へ通報し、寮室へ入り施錠するなどの自己防衛を図る。

(以 上)

2 「学寮給食」（実行案。一部、検討中。）

学 寮 給 食 一災害対策用一

平成 21年度

目 次

- 1 水の確保
- 2 食の確保
 - 1) 非常食献立
 - 2) 非常食品・用品・備品
 - 3) 危機管理体制の確保
 - 4) 要員の確保
 - 5) 衛生管理
 - 6) 給食実施訓練
- 3 献立表
- 4 非常食品・用品・備品リスト並びに管理方法
- 5 非常食献立栄養価表
- 6 非常食献立一人当たり価格表

広島文教女子大学
淳風寮 給食室

学寮給食 一災害対策用一

網掛＝検討事項・マニュアル作成必要

1 水の確保

飲料水の確保 : 大人一人一日当り3ℓが目安 (ペットボトル・ポリタンク利用)

生活水の確保 : 大人一人一日当り10ℓが目安 (貯水槽【現在 27t】に常時水を貯めておく。)
現在のもので十分だが、揚水に問題があるかもしれない。: 停電時ポンプ必要(事務局調査)

2 食の確保

1) 非常食献立の検討 (3日分)

寮生最大収容人員を280人とし、スタッフを加えて、300人で計画した。

- ① 熱源・調理が不要 : 給食スタッフだけでなく、舎監・寮生にも対応が可能な献立にする。
- ② 可能な限り長期常温保存が可能(2年以上・25℃くらいで保存可)な製品を選択する。
- ③ 栄養成分表示をする。
- ④ 日常食に近く、味が良いこと。
- ⑤ 一日目は混乱が予想されるため、配布のみで対応できる献立にする。
- ⑥ 加熱調理が可能な場合 : 非加熱食品を湯煎等で加熱する。(可能であれば皿に盛り付ける。)
- ⑦ 常食への展開と消費(賞味)期間の管理を含めて、献立を作成する。
* 『防災の日』、『避難訓練の日』その他『寮の行事』に併せて使用する。
年に2～3回、寮生に伝達の上、備蓄食品を使用し、新規の食品と入れ替える。
* 備蓄用の水は、通常の献立にあるスープ・汁に使用する。
* 消費(賞味)期間の管理マニュアル作成。
保管状況チェックマニュアル: 定期的に保存状態を確認すること。(検食)
- ⑧ 病人用への対応も別途考慮する。(献立表以外でレトルト食品の粥等)
- ⑨ 配膳時の励ましの声かけ・挨拶を大切にする。

2) 非常食品・用品・備品の検討

- ① 水・食品の保管 (消費・賞味期間の管理)
- ② 保管場所は可能な限り分散することが望ましい。
* 貯蔵施設(倉庫等)の確保(耐震耐火対策) : 出来れば各ブロックに保管場所を設定する。
* 現在、1寮奥非常口横の部屋が専用倉庫用に使用可。
(部屋の改造が必要 : 空調・固定された両扉ロッカーの設置等)
- ③ 非常食は1食ずつナンバリングして、第1食～第9食別に保管することが望ましい。
この場合、消費(賞味)期間別での管理マニュアルが必要。
- ④ ガス・電気の対応 (耐震耐火対策・機器類の固定・熱源の複数化)
- ⑤ 調理機器の対応
* ガス調理機器の災害時対応マニュアル作成
* 災害の状況によるが、人間栄養学科の実習用設備の使用が考えられる。(プロパンバス対応可)

3) 危機管理体制の確保

① 天災時(震災・火災・台風・水害等)

a.被災状況の把握(点検表作成)・食材料納品業者の被災状況や営業の有無の確認(業者連絡表作成)・食事形態の判断と指示・物資の受け入れと配布。

b.給食室にて調理の可能性を判断し、食事形態について寮生に周知する。
調理不能な場合は、備蓄非常食にて対応しつつ、給食の援助を要請する。

* 水・食料・援助物資の入手方法の検討

c.備蓄食の存在と場所は、スタッフだけでなく、寮生にも周知しておく。
内容の詳細は保管庫内へ表示し、スタッフには通知しておく。(リスト作成)

d.非常持ち出し品のリスト作成

e.マニュアル・点検表作成

【被災状況の把握・調理作業・分配作業・勤務体制の調節・復旧作業(手配等含む)】

② 食中毒発生時の体制

a.給食の援助を要請する。(要請可能な業者と非常時の契約をしておく。)

b.食中毒発生時の対応マニュアル作成

③ 停電時の対応マニュアル作成(台風の時)

④ 非常時の連絡体制を整える。(学内との連絡・舎監との連携等)

⑤ 避難訓練実施(職員全員で担当を分担した上で行う。)

⑥ 施設・設備の対応: 耐震耐火対策・機器の固定等

オール電化が震災対策にはなるが、ランニングコストがかかる。(台風等の停電時には対応できない。)

4) 要員の確保(10数名の要員が必要と考えられる。)

① 災害発生時に出勤予定者で遅れる又は出勤不可能な場合、連絡をする。
また、公休者は自分の状況と出勤の可否を連絡する。

② 出勤可能者及び職員の被災状況の把握をする。

③ 寮生ボランティアを募る。(給食委員・寮友会にも協力を得て、『献身的な隣人愛の精神』で対応する。)

④ 勤務表を作成する。

5) 衛生管理

① 喫食時の衛生安全管理

ナプキン等手洗い用品の確保及び衛生チェックマニュアル作成。

② 通常業務再開前に次の2点を実施すること。

a.給食室使用時は、安全衛生のため保健所の指導を仰ぐ。

b.「検便」は定期検査とは別途に「震災による特別健康診断」として実施する。

6) 給食実施訓練

① 災害時を想定して作った献立を試作・試食しておく。

② 常に新たな備蓄食品等についての学習、市場調査を行っていく。

3 献立表【2日目】

エネルギー 2082Kcal ・ タンパク質 43g ・ 脂質 70.8g

朝食	分量	必要数	保存	昼食	分量	必要数	保存	夕食	分量	必要数	保存			
献立（非加熱）	缶詰パン(オレンジ)	100g	300缶	5年	アルファ化米(山菜) 水提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年	アルファ化米(白) 水提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年		
	缶スープ(オニオン)	190g	300缶	3年	紙パックおーいお茶 緑茶	250ml	300本	1年	レトルト中華丼	180g	300個	1年		
	缶果物(3種混合果実)	110g	300缶	2年	惣菜缶(鯖の味噌煮)	100g	300缶	2年	水ペットボトル	500ml	300本	1年		
	使い捨てスプーン8cm		300本		ソイジョイ(いちご)	30g	300個	1年	ミックスナッツ	15g	300個	3ヶ月		
					割り箸		300本		使い捨てスプーン8cm		300本			
	【給食献立(加熱可) スタッフ対応含む】	缶詰パン(オレンジ)	100g	300缶	5年	アルファ化米(山菜) お湯提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年	アルファ化米(白) お湯提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年	
		湯煎加熱 缶スープ(オニオン)	190g	300缶	3年	紙パックおーいお茶 緑茶	250ml	300本	1年	湯煎加熱 レトルト中華丼	180g	300個	1年	
		缶果物(3種混合果実)	110g	300缶	2年	惣菜缶(鯖の味噌煮)	100g	300缶	2年	水ペットボトル	500ml	300本	1年	
		使い捨てスプーン8cm		300本		ソイジョイ(いちご)	30g	300個	1年	ミックスナッツ	15g	300個	3ヶ月	
						割り箸		300本		使い捨てスプーン8cm		300本		
		常食への展開 (使用献立)	缶詰パン(オレンジ)				アルファ化米(山菜)			アルファ化米(白)				
			缶スープ(オニオン)				紙パック緑茶			レトルト中華丼				
缶果物(3種混合果実)						惣菜缶(鯖の味噌煮)			→大学祭(日曜日夕食)で使用					
→防災訓練の日(前期5月下旬朝食)に使用						→防災訓練の日(後期10月下旬)に使用			ミックスナッツ→平常時献立(朝食・昼食・夕食)に使用					
						ソイジョイ(いちご)			水→平常時献立時(汁物)に使用					
						→大学祭(夕食)・スポーツデー等に使用								

網掛＝加熱提供

3 献立表【3日目】

エネルギー 2011Kcal ・ タンパク質 41.1g ・ 脂質 43.4g

	朝食	分量	必要数	保存	昼食	分量	必要数	保存	夕食	分量	必要数	保存
献立（非加熱）	缶詰パン(オレンジ)	100g	300缶	5年	アルファ化米(五目おこわ) 水提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年	アルファ化米(白) 水提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年
	缶スープ(ミネストローネ)	190g	300缶	3年	紙パックおーいお茶 緑茶	250ml	300本	1年	レトルトハヤシライス	180g	300個	1年
	缶果物(3種混合果実)	110g	300缶	2年	惣菜缶(牛じゃが)	70g	300缶	3年	水ペットボトル	500ml	300本	1年
	使い捨てスプーン8cm		300本		ようかん 割り箸	60g	300個 300本	3年	(シーチキン コーン) 使い捨てスプーン8cm	80g	300缶 300本	2年
【給食スタッフ対応含む】 献立（加熱可）	缶詰パン(オレンジ)	100g	300缶	5年	アルファ化米(五目おこわ) お湯提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年	アルファ化米(白) お湯提供 ペットボトル	100g 220ml	300個 2ℓ×33本	5年 1年
	湯煎加熱 缶スープ(ミネストローネ)	190g	300缶	3年	紙パックおーいお茶 緑茶	250ml	300本	1年	湯煎加熱 レトルトハヤシライス	180g	300個	1年
	缶果物(3種混合果実)	110g	300缶	2年	湯煎加熱 惣菜缶(牛じゃが)	70g	300缶	3年	水ペットボトル	500ml	300本	1年
	使い捨てスプーン8cm		300本		ようかん 割り箸	60g	300個 300本	3年	(シーチキン コーン) 使い捨てスプーン8cm	80g	300缶 300本	2年
常食 (使用への 献立展開)	缶詰パン(オレンジ) 缶スープ(ミネストローネ) 缶果物(3種混合果実) →防災訓練の日(前期5月下旬朝食)に使用				アルファ化米(五目おこわ) 紙パック緑茶 惣菜缶(肉じゃが) ようかん →防災訓練の日(後期10月下旬)に使用 水→平常時献立時(汁物)に使用				アルファ化米(白) レトルトハヤシライス 惣菜缶(シーチキン コーン) →大学祭(土曜日夕食)で使用 水→平常時献立時(汁物)に使用			

網掛＝加熱提供

4 非常食品・用品・備品リスト並びに管理方法

NO.1

項目	必要品名	必要量 (300人分×3日間=9食分)	消費期限 及び 現在の有無	保管場所	保管方法 (使用方法)
水・飲み物の保管 3ℓ/一日一人当たり	水(ベットボトル) 500ml 水(ベットボトル) 2ℓ 水(ベットボトル) 2ℓ 紙パックお茶 250ml	900本(夕食食事に配布用) 200本(昼食・夕食時アルファ化米に使用 220ml×2回×300人×3日) 900本(一日一人当たり2ℓ×300人×3日) 900本	1年 × 1年 × 1年 × 1年 ×		常食への展開 * 消費期限内に随時更新して使用 * 水→平常時献立(汁物)に使用 * お茶 →大学祭・防災訓練日等で使用
食品 アルファ化米 乾パン 即席種 缶詰 レトルト 冷凍食品 フリーズドライ食品 常温保管可能な食品	アルファ化米 レトルト 缶詰 冷凍食品 フリーズドライ食品 常温保管可能な食品	ワカメ・山菜・五目おこわ 各300食 白飯 900個 カレーライス・ハヤシライス・中華丼 各300食 カロリメイト 300個 ソイジョイ 300個 大型カンパン(1斗缶入り)18L缶入り×4缶=256パック(11パック115g)→補助用 缶詰(缶詰り不要) 缶詰(缶詰り不要) 惣菜缶各300缶 (ウインナー・鯖の味噌煮・牛じゃが・シーチキンポテト・シーチキンコンコン) 果物缶 900缶 お粥	5年 × 1年 × 1年 × 1年 × 5年 × 1~3年 × 2~3年 × 2年 × 1年 ×	1 寮奥非常口横専用倉庫 (部屋の改造が必要) :空調・固定された両扉ロッカーの設置等) 可能な限り分散することが望ましい 食品庫	常食への展開 * 消費期限内に随時更新して使用 防災訓練日・大学祭・スポーツデー等で使用 * アルファ化米・レトルト・栄養食品 * 缶詰(缶詰り不要) 惣菜缶・果物缶 * おかゆ食で使用
在庫食品 配布できる状況であれば、 配布する	缶詰(缶詰り不要) 冷凍食品 個包装食品	果物缶各種 (通常の在庫で対応する:皿使用) 現在の冷凍パン(5ケース=500個) 小魚アーモンド・プルーン・角チーズ・アーモンドチーズ:常備各40~80個あり (長期保存はできないが、配布しやすく、エネルギーが高い)	3年 ○ 6ヶ月 ○ 6ヶ月 ○	食品庫 冷凍庫 食品庫・冷蔵庫	常食への展開 * 果物缶→常食時に使用中 * 冷凍パン→常食時に使用中 * 個包装食品 →大学祭・スポーツデー等で使用中
割り箸・使い捨てスプーン	割り箸 使い捨てスプーン	900膳 1800本	△ ×		
ラップ・ビニール袋	ラップ ビニール袋	15本(5本×3日) 13号:2700枚(300枚×9食) 特大100枚	○ ○ ○	倉庫 および 食品庫 (1寮奥非常口横専用倉庫 にも置いておくこと) 可能な限り分散することが望ましい	ラップ:通常の在庫で対応する ビニール袋:通常の在庫で対応する
アルベットのアルコール消毒) ビニール手袋 ティッシュ	アルベットのアルコール消毒) ビニール手袋 ティッシュ	15本【30cm×100m 350ml入り】(5本×3日) 9箱(200枚入り3箱×3日) 10枚入り:900個(300個×3日寮生用)+50枚入りボックス9本(厨房用)…手洗い用兼ねる ティッシュ 12箱(4箱×3日)	○ ○ × ×		アルベット:通常の在庫で対応する ビニール手袋:通常の在庫で対応する

4 非常食品・用品・備品リスト並びに管理方法

NO.2

項目	必要品名	必要量 (300人分×3日間=9食分)	消費期限 及び 現在の有無	保管場所	保管方法 (使用方法)
ガス(カセットコンロ)	カセットコンロ(+ガスボンベ) チャッカマン	13台(ブロック1台+厨房用3台) ガスボンベ26本 3本	×		在詰湯煎時、湯沸し用として使用
調理器具	鍋 やかん お玉 トング 缶切り	70用10個 大3~50用 11個(ブロック1個+厨房用1個) 144cc・180cc 各3本 13本(缶加熱後取り出し用) 3個	○ △ ○ ○ ○	1寮奥非常口横専用倉庫 (できれば各ブロック) 可能な限り分散することが望ましい	在詰湯煎時、湯沸し用として使用
その他	軍手 輪ゴム 筆記用具 乾電池 懐中電灯 懐中電灯(大ランタン型) ポリタンク(折りたたみ式) 運搬箱 台車(軽量タイプ)	12組 1袋(500g) 用紙、マーカー、エンピツ等 単1~4まで各40個 3個 10個 20個(ブロック2個) 20個(ブロック2個) 3台	○ ○ ○ △ ○ ○ ×		
電気(自家発電)	電器ポット 自家発電装置(空冷方式) 発電機(ガソリンエンジン) 無鉛ガソリン(150/タンク) 現在ある厨房内の冷凍庫・冷蔵庫 * 1057ℓ 冷凍庫 * 322ℓ 冷凍庫 * 1057ℓ 冷凍庫 * 469ℓ チルド冷蔵庫 * 322ℓ コールドテーブル冷蔵庫 * 5780ℓ プレハブ冷蔵庫	23台(ブロック2台+厨房用3台) 設置が可能ならあつた方がよい。 現在の厨房冷凍庫・冷蔵庫用としても使用可(台風後等の停電時に対応できる) (規格) (三相200V・単相115V) (60/時間) (規格) (200v 3φ 50/60Hz 1009w 2.9A) (100v 1φ 50/60Hz 442w 4.1A) (200v 3φ 50/60Hz 569w 1.0A) (100v 1φ 50/60Hz 415w 3.6A) (100v 1φ 50/60Hz 442w 4.1A) (200v 3φ 50/60Hz 750w 3.0A)	×		

5 非常食献立 栄養価表

1 日 目					
献 立		栄 養 表 示			
		エネルギー	たんぱく質	炭水化物	脂質
朝 食	カロリーメイト【フルーツ味】4本 (400g)	400	8.2	41	22.2
	缶スープ【コーンポタージュ】(200g)	200	7.1	31	4.4
	缶果物【3種混合果実】(110g)	98	0.4	24.3	0
昼 食	アルファ化米【ワカメ】(100g)	355	6.6	79	1.4
	紙パックおーいお茶 緑茶(250ml)				
	惣菜缶【ウィンナーソーセージ】100g	208	13.1	3	24.8
	だんご缶詰【ごま風味】(90g)	217	4.1	37.6	5.6
夕 食	アルファ化米【白】(100g)	383	6.6	79	1.4
	レトルトカレーライス (180g)	165	5.9	21.2	6.3
	惣菜缶【シーチキン ポテト】(80g)	99	8.4	4.5	5.6
小 計		2125 Kcal	60.4 g	320.6 g	71.7 g

2 日 目					
献 立		栄 養 表 示			
		エネルギー	たんぱく質	炭水化物	脂質
朝 食	缶詰パン【オレンジ】(100g)	590	5.6	47.8	25.6
	缶スープ【オニオン】(190g)	26	1.3	5.1	0
	缶果物【3種混合果実】(110g)	98	0.4	24.3	0
昼 食	アルファ化米【山菜おこわ】(100g)	360	6.6	85.2	1.4
	紙パックおーいお茶 緑茶(250ml)				
	惣菜缶【鯖の味噌煮】(100g)	299	11.4	11.7	22.9
	ソイジョイ【いちご】(30g)	133	4.2	12.5	6.8
夕 食	アルファ化米【白】(100g)	383	6.6	79	1.4
	レトルト中華丼(180g)	110	3.8	9	6.5
	ミックスナッツ15g	83	3.1	4.9	6.2
小 計		2082 Kcal	43 g	279.5 g	70.8 g

3 日 目					
献 立		栄 養 表 示			
		エネルギー	たんぱく質	炭水化物	脂質
朝 食	缶詰パン【オレンジ】(100g)	590	5.6	47.8	25.6
	缶スープ【ミネストローネ】(190g)	64	3	8.7	1.9
	缶果物【3種混合果実】(110g)	98	0.4	24.3	0
昼 食	アルファ化米【五目おこわ】(100g)	391	7.1	78.8	2
	紙パックおーいお茶 緑茶(250ml)				
	惣菜缶【牛じゃが】(70g)	51	2	9.4	0.7
	ようかん(60g)	171	1.9	40.7	0.1
夕 食	アルファ化米【白】(100g)	383	6.6	79	1.4
	レトルトハヤシライス(180g)	165	5.9	21.2	6.3
	惣菜缶【シーチキン コーン】(80g)	98	8.6	3.8	5.4
小 計		2011 Kcal	41.1 g	313.7 g	43.4 g

合 計	6,218.0 Kcal	144.5 g	913.8 g	185.9 g
平 均	2,072.7 Kcal	48.2 g	304.6 g	62.0 g

6 非常食献立 一人当たり価格表

1 日 目		
献 立		単価 円
朝 食	カロリーメイト【フルーツ味】4本 (400g)	210
	缶スープ【コーンポタージュ】(200g)	210
	缶果物【3種混合果実】(110g)	150
	使い捨てスプーン8cm	2.2
昼 食	アルファ化米【ワカメ】(100g)	336
	水提供ペットボトル(220ml)	34
	紙パックおーいお茶 緑茶(250ml)	84
	惣菜缶【ウィンナーソーセージ】100g	245
	だんご缶詰【ごま風味】(90g)	263
	割り箸	2.7
夕 食	アルファ化米【白】(100g)	294
	水提供ペットボトル(220ml)	34
	レトルトカレーライス(180g)	200
	水ペットボトル(500ml)	105
	使い捨てスプーン8cm	2.2
	惣菜缶【シーチキン ポテト】(80g)	170
	小 計	2,342.1 円

2 日 目		
献 立		単価 円
朝 食	缶詰パン【オレンジ】(100g)	420
	缶スープ【オニオン】(190g)	294
	缶果物【3種混合果実】(110g)	150
	使い捨てスプーン8cm	2.2
昼 食	アルファ化米【山菜おこわ】(100g)	400
	水提供ペットボトル(220ml)	34
	紙パックおーいお茶 緑茶(250ml)	84
	惣菜缶【鯖の味噌煮】(100g)	179
	ソイジョイ【いちご】(30g)	121
	割り箸	2.7
夕 食	アルファ化米【白】(100g)	294
	水提供ペットボトル(220ml)	34
	レトルト中華丼(180g)	200
	水ペットボトル(500ml)	105
	ミックスマツツ15g	26.4
	使い捨てスプーン8cm	2.2
	小 計	2,348.5 円

3 日 目		
献 立		単価 円
朝 食	缶詰パン【オレンジ】(100g)	420
	缶スープ【ミネストローネ】(190g)	294
	缶果物【3種混合果実】(110g)	150
	使い捨てスプーン8cm	2.2
昼 食	アルファ化米【五目おこわ】(100g)	400
	水提供ペットボトル(220ml)	34
	紙パックおーいお茶 緑茶(250ml)	84
	惣菜缶【牛じゃが】(70g)	150
	ようかん(60g)	84
	割り箸	2.7
夕 食	アルファ化米【白】(100g)	294
	水提供ペットボトル(220ml)	34
	レトルトハヤシライス(180g)	200
	水ペットボトル(500ml)	105
	惣菜缶【シーチキン コーン】(80g)	170
	使い捨てスプーン8cm	2.2
	小 計	2,256.1 円
合 計	6,946.7 円	
平 均	2,315.6 円	

3 「落雷」 (例示)

1) 落雷事故とその責任(事例)

1996年8月、大阪府高槻市で開催されたにサッカー大会に参加した高校生が、試合中に落雷に遭って、視力を失い手足が不自由になった。当該の参加校(高知県)と主催団体(市体育協会)の責任を問う裁判の結果、「落雷は予見できた」として、両者に損害賠償を命じる判決が下された。このような経過を踏まえて、2008年10月に日本サッカー協会は落雷事故の防止対策として次のような指針を示した(抜粋)。

1. [基本的指針]

屋外でのサッカー活動中(トレーニングも含む)に落雷の予兆があった場合は、速やかに活動を中止し、危険性が無くなると判断されるまで安全な場所に避難するなど、選手の安全確保を最優先事項として常に留意する。

2. 基本指針実行のために、下記の事項について事前によく調べ、また決定を行ったうえで活動を行うものとする。

① 当日の天気予報(特に大雨や雷雨などについて)

② 避難場所の確認

③ 活動中止の権限を持つ者の特定、中止決定の際の連絡フローの決定

3. 大会当日のプログラムは予め余裕を持ったスケジュールを組み、少しでも危険性のある場合は躊躇なく活動を中止すること。

4. 避雷針の有無や避難場所からの距離、活動場所の形状によって活動中止の判断は異なるが、特に周囲に何も無い状況下においては少しでも落雷の予兆があった場合は速やかに活動中止の判断を行うこと。

2009年6月の新聞報道によれば、主催団体であった市体育協会は、賠償金の一部を基本財産から支払ったが、残金の約八千万円の支払いが困難になったため、裁判所に破産を申し立て、資産整理を行って賠償金に充てることにしたという。

2) 落雷事故防止のための留意点

落雷による危険から身を守ることは、上述したスポーツ競技会ばかりでなく屋外での行事、さらには、個人の日常生活においても必要である。そのためには、次のようなことがらに留意すべきである。

① 雷を知る

i) 大気が不安定な時に、局地的上昇気流によって、雷雲(積乱雲)が発生する。

ii) 積乱雲がもくもくと発生するのが見えたら、数分後に落雷の危険がある。

iii) 「ゴロゴロ」と雷鳴が、かすかにでも聞こえ始めたら、そこに落雷する危険性がある。雷鳴の聞こえる範囲は、およそ 10km である。

iv) 雷は雨が降る前に発生し、落雷する。

v) 落雷の危険は、雷雲が消滅するまで続く。

② 予報・注意報に耳を傾ける

雷は、狭い範囲での、短時間の気象条件なので、現状の観測態勢では、十分な予測はできない。しかし、屋外での行事・作業の前には、雷の発生しやすい気象状況なのか否かを確認しておくことが重要である。

i) テレビなどの天気予報で、「大気が不安定」との言葉が出れば、雷の発生が予測される。

ii) インターネットなどで、雷予報をチェックする。

3) 雷の接近を知り、事前に避難する。

雷鳴が聞こえた時には、すでに落雷の危険区域に入ってしまったている。

激しい雨が降り出してから避難するのは、完全に逃げ遅れ。

4) 雷に遭遇してしまったときの緊急避難

次の 5) に示す、少しでも安全な場所に、できるだけ低い姿勢で避難する。

・小枝や葉も含めて樹木の 4m 以内に近づかない。木のそばへの避難は、自殺行為。

・雨が降っていても、絶対に傘をささない。(20cm の高さの差が、生死を分ける場合もある。)

・釣り竿、ゴルフクラブなどの長い物体は、素材に関わらず、身体から離して地面に寝かせる。

・ゴム長靴・ビニールレインコートを身につけていても、少しも安全ではない。

・金属類は、そのまま身につけていても雷を引き寄せない。

・低い姿勢をとるときは、寝そべらず、両足の間隔を狭くしてしゃがみ、指で両耳をふさぐ。(脚を広げていると、落雷時に地面を流れる電流が体を通り、負傷する。)

・落雷の後、次の雷が落ちてこない安全時間というものはない。「雷雲が蓄電するのに 10 秒かかるので、10 秒間は落雷が無い」というのは、誤りである。

・落雷が起きる直前

地面の電位が大幅に変化するため、「口の中に鉄の味が広がり、髪の毛が逆立ち、空気が静電気を帯びたように皮膚がビリビリ感じる。」という落

雷被害者の報告がある。このような事態に遭遇したら、その場からできるだけ安全度の高い場所へ、必ず姿勢を低くして逃げる。

5) 落雷に対して安全・危険な場所

i) 十分安全な場所(個々に避難する。)

・鉄筋コンクリートの建築物，一戸建て住宅などの本格的木造建築物。

（屋外アンテナにつながるテレビや無線機からは、2m以上離れる。

電灯線・電話線、これに繋がる全ての電気器具からは必ず1m以上離れる。

ガス管・水道管やガス栓・蛇口からは1m以上離れる。

柱・壁・天井から1m以上離れる。

炊事・風呂も、地面に落ちた電流が水道管等を伝わってくるので禁止。

屋内プールにも立ち入らない。

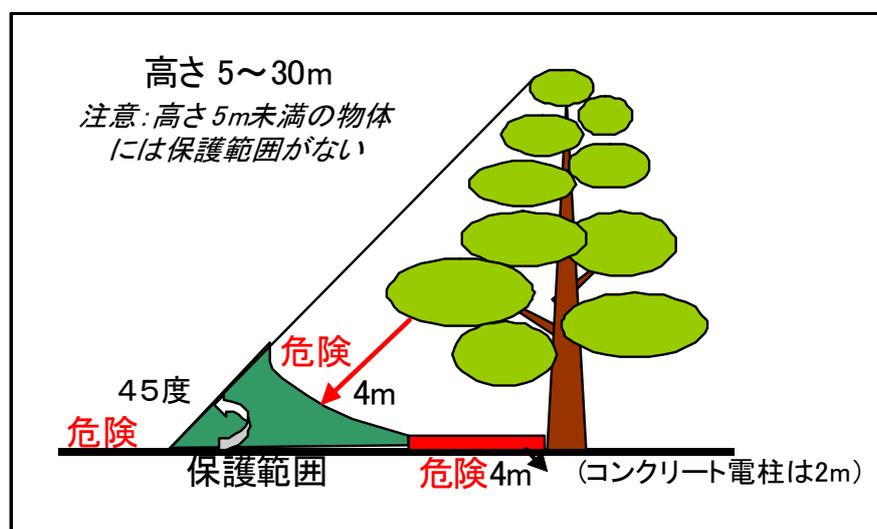
・屋根が金属でできている自動車・バス・列車・飛行機の中。

窓は閉め、車体・ハンドル・電装機器には手を触れない。

・洞窟 酸欠、転倒などに注意し、入り口には立たない。

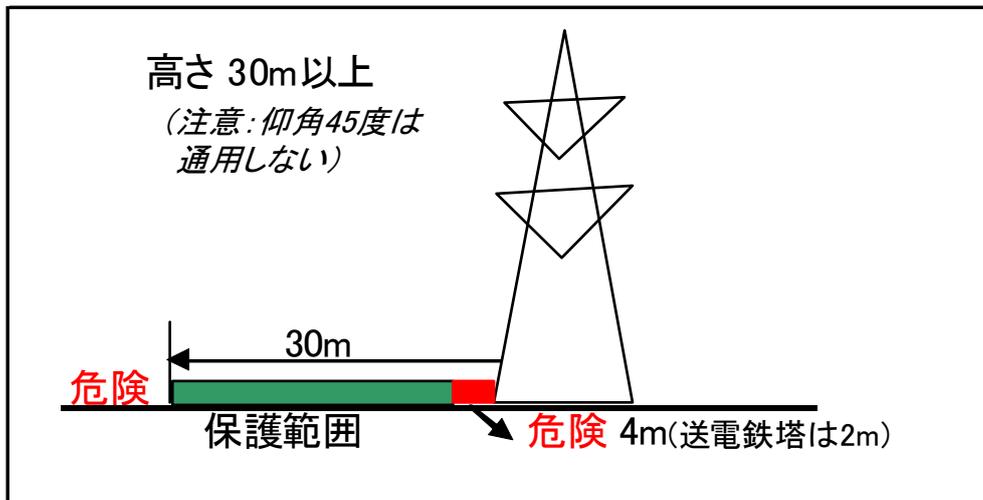
ii) 比較的安全な場所(100%安全ということではない。5%以内の危険性あり。)

・高さ5～30mの物体(樹木、建物、ポール、電柱)の保護範囲



物体(樹木の場合は、張り出している葉・小枝)から4m以上離れる。ただし、コンクリート電柱の場合は、2m以上で十分。

・高さ30m以上の物体(高層建築物、アームをのぼした大型クレーン、煙突、送電線の鉄塔)の保護範囲



物体から 4m 以上離れる (送電線の鉄塔は、2m 以上)。

姿勢を低くする。(両足を揃えてしゃがみ、指で両耳穴をふさぐ。以下、「姿勢を低くする」場合は同様の対応をする。)

- ・ 橋の下・乾いた窪地や溝 (ただし、河川の増水や雨水の流入でおぼれない確信がある場所)

姿勢を低くする。

iii) 安全性が低い場所

- ・ 林や森の中で、木がまばらなところ

姿勢を低くする。

- ・ 湿った窪地や溝

姿勢を低くする。

- ・ 避雷針設備のない山小屋・トタン屋根の仮小屋・あずまや
柱や壁からできるだけ離れる。

姿勢を低くする。

iv) 危険な場所 (即座に離れ、i ~ iii に腰をかがめてできるだけ低い姿勢で移動する。)

- ・ 高さが 5m 未満の物体 (樹木・岩など) の周囲

保護範囲が無く、かえって危険。

- ・ 高さ 5~30m の物体 (樹木、建物、ポール、電柱) の保護範囲外

物体から 4m 未満の位置

物体のてっぺんを見上げる角度が 45 度未満

- ・ 高さ 30m 以上の物体 (高層建築物、アームをのばした大型クレーン、煙突、送電線の鉄塔) の保護範囲外

物体から 4m 未満の位置

物体から 30m 以上離れた位置

- 林や森の中
木の高さがわからず、保護範囲を目測するのが不可能
葉や小枝を含む全ての樹木から 4m 以上離れるのが不可能
 - テントの中、ビーチパラソルの下
平地で、姿勢を低くしている時より危険
ポールに落雷し、側撃雷*が襲う。
(*側撃雷：落雷の直撃を受けた物体や人の近くにいると、その人にも放電が移る場合がある。これを側撃雷という。)
樹木の上に張ったビニールシートの下での雨宿りは厳禁。
 - 屋根が布またはビニール製の幌で出来ている自動車・列車
オープンカー、ゴルフ場のカート、幌で張ったトラックの荷台は危険。
 - 自転車・オートバイ
特に、雷雨の中、堤防の上の道や農道を走行するのは自殺行為。
激しい雨も降るので、早めに降りて避難する。
 - 開けたところ
山頂、尾根、堤防の上、河川敷、田畑
海岸、海上・湖上(水泳、サーフィンボード、水上オートバイ、避雷針のないヨット・漁船)
グラウンド、テニスコート、ゴルフ場、屋外プール、屋根のない観客席
- v) 雷鳴が聞こえなくなり、雷光が見えなくなったら、30 分以上経過したら、避難所からの移動を開始する。

<あおば屋> <http://www.aobaya.jp/chishiki.html>

(以 上)



「危機管理マニュアル」(別冊)

平成21年11月刊行

学校法人武田学園
危機管理委員会